

県特産果樹の難防除害虫対策の強化

要約

- ・ アザミウマの発生ピークの把握を行い、適期防除により果実の高品質化を推進（カキ）
- ・ 粘着板を用いて生産者自らがアザミウマの発生状況の確認を行い、早期発見と効果的な防除を実践（イチジク）

現状(背景)と課題

カキとイチジクの産地ではアザミウマの加害による果実品質の低下が問題。アザミウマは、カキでは果実のヘタの隙間に、イチジクでは果実の中に寄生するため、防除が困難で適期防除が重要。

目標

- ・ 地域の実情に即した防除暦に基づく防除の実践（カキ）
- ・ 被害果率の低減（カキ）
- ・ 粘着板を用いた効果的防除の実践者の育成（イチジク）

活動内容（対象：天理市果樹園芸組合員 28 名、イチジク生産者 44 名）

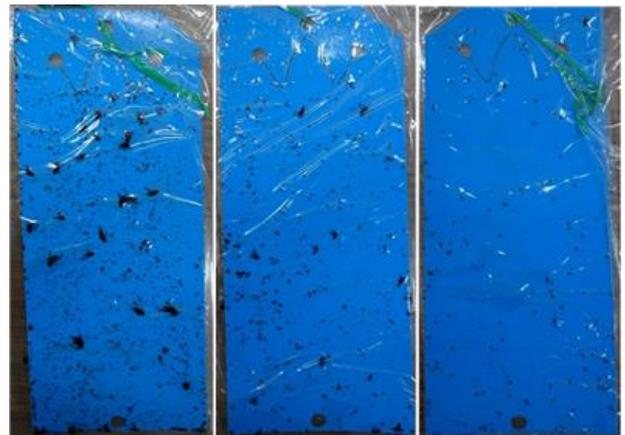
- ・ 黄色粘着板を用いた発生状況調査（カキ）
- ・ 栽培講習会で防除のポイントを提供（カキ）
- ・ 勉強会で粘着板を用いた害虫防除方法を説明（イチジク）

成果

- ・ 地域の実情に即した防除暦による病虫害防除の実践（カキ）
- ・ チャノキイロアザミウマの被害果率の低下（H30：40.3% → R1：14.8%）（カキ）
- ・ 粘着板を用いた効果的防除の実践者の増加（H30：14 名 → R1：19 名）（イチジク）



栽培講習会での情報提供



青色粘着板を用いたアザミウマの見える化

北部農林振興事務所農林普及課
担当：農産物ブランド推進第1係 山本正文・大北修平
リーディング品目支援事業、チャレンジ品目支援事業

普及活動のポイント

- ・チャノキイロアザミウマの防除に重点を置いた防除暦に基づく害虫防除（カキ）
- ・有効積算温度計算と粘着板での捕殺数の情報を活用して、発生ピークを予測し、生産者組織のネットワークを活用して迅速な情報提供（カキ）
- ・微小害虫の見える化により、生産者自らが防除適期を判断（イチジク）

対象の変化

- ・チャノキイロアザミウマの発生ピークに合わせた防除を実施（カキ）
- ・自らアザミウマ類の発生状態を把握した上で、効果的な防除を実施（イチジク）

対象者からのコメント

- ・発生ピークの情報提供により、適期防除を行うことができた（カキ）。
- ・微小害虫のアザミウマ類の見える化により、以前より適期防除がしやすくなった（イチジク）。

これからの活動ビジョン

- ・引き続き発生予察と迅速な情報提供を継続することにより被害低減を図る（カキ）。
- ・引き続き粘着板を用いた防除の普及と定着を支援する（イチジク）。

活動体制

- ・果樹・薬草研究センター（病害虫発生予察調査、技術情報提供）
- ・JAならけん天理・郡山営農経済センター（営農指導）
- ・農業水産振興課（全体調整）

用語解説

粘着板

害虫は特定の色の好みがあり、カキの害虫であるチャノキイロアザミウマは黄色に、イチジクを加害するヒラズハナアザミウマやハナアザミウマ、ネギアザミウマなどは青色に引き寄せられる。

このため、粘着成分を塗りつけた黄色や青色のプラスチック製の粘着板は、栽培圃場などでの害虫発生量の把握に用いることができる。